

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 復興支援 - 05

学校名・団体名	宮古市立磯鷄小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	地域の伝統芸能「沖上げ」の伝承活動
<p>〈活動・研究の意義および活動報告〉</p> <p>1 活動・研究の意義</p> <p>本学区は漁業が盛んに行われてきた歴史をもつ地域である。磯鷄地区に伝わる伝統芸能の「沖上げ」は「労働歌」として歌い継がれたものであり、大漁を祝う宴の中では歌に振りをつけて踊り、宴を盛り上げたものであるといわれている。このように漁業のおかげで地域全体が豊かになってきたという郷土の歴史を児童に伝え、郷土への誇りと愛情をもたせたいという願いから昭和55年に学校の伝承活動として取り入れたものである。</p> <p>活動当初は、PTAや沖上げ保存会の指導のもと、「沖上げ」の意義や踊り方を児童は学んだ。しかし、年々指導できる方が減っており、児童に「沖上げ」の踊り方だけでなく地域のよさや郷土の歴史、当時の人々の思いを伝えられるようにするために資料や教材の充実が求められる状況である。そこで、児童が「沖上げ」に対する理解を深め、意欲的に伝承活動に取り組めるようにしていくために「沖上げ」の資料を展示した伝承室を開設している。</p> <p>また、東日本大震災では「沖上げ」の中心となった地区である磯鷄地区が学区の中で最も大きな被害を受けた。そこで、「沖上げ」の学びを深めるためにも、地域が被災した様子や復興していく様子が見られる資料を「沖上げ」の伝承室に並行して展示している。</p> <p>以上のように、伝統芸能「沖上げ」の伝承活動の取組は、ふるさと磯鷄の復興・発展を支えようとする心情を育む活動として位置付いている。</p>	

2 総合的な学習の時間における伝統芸能「沖上げ」の伝承活動

(1) 目標

- 第5学年 「沖上げ」について調べ、引き継がれてきた意義を知り、芸能を伝承することによって郷土や地域への理解を深める。
- 第6学年 引き継いできた「沖上げ」を後輩たちに引き継ぐことにより、これまでの学びを振り返り、郷土や地域の愛情を深めるとともに、地域を愛し、社会を支える心情を高める。

(2) 単元指導計画

	第5学年	第6学年
導入	①「沖上げ」とは何なのだろう。	①どのように引き継げばよいのだろう。
展開	②「沖上げ」を引き継ごう。	
終末	③引き継いだ「沖上げ」を発表しよう。	③「沖上げ」のまとめをしよう。

(3) 活動の様子

①導入 「沖上げ」とは何なのだろう。(第5学年)

【学習の概要】

児童の沖上げの認識はこれまで運動会の表現種目の一つということに過ぎなかった。授業では、「なぜ沖上げが始まったのだろう。」「沖上げをどうしてするのだろう。」という課題のもと、資料を調べ、話し合いをした。

児童の感想では、「漁業が生活に大きくかかわり、沖上げは大漁の喜びを分かち合ったり、苦しいときは歌って頑張ったりできるものだ分かった。」「とても思いがこもっている踊りだと思った。」という先人の思いを理解し、沖上げを引き継ごうとする意欲をもつことができた。



【沖上げ伝承室で沖上げの意義を話し合っている様子】

②展開 「沖上げ」を引き継ごう。(第5・6学年)

③終末 引き継いだ「沖上げ」を発表しよう。(第5学年)

「沖上げ」のまとめをしよう。(第6学年)

【学習の概要】

まず、5年生と6年生が踊りを教わるペアをつくって活動した。6年生は準備の仕方を教え、模範演技を見せた後、上手に踊れるようにうまくできていないところをチェックしながら詳しく教えた。「6年生を送る会」では、学びの成果を6年生に見せてこれまでの指導への感謝を表した。

6年生からは、「自分たちの役割を果たせてよかった。後輩たちにこれから磯鶏の伝統を守ってほしい。」という感想があり、それに対して、5年生も「先輩たちから伝えられた伝統をしっかり引き継ぎ、来年はしっかり引き継ぎたい。」という感想を話していた。



【6年生が模範演技をし、5年生が踊り方を見て学んでいる様子】

6年生はこれまでの沖上げの集大成として、近隣の介護施設に訪問し、「沖上げ」を発表した。

施設には、「沖上げ」を知っている方や磯鶏小学校に子供を通わせていた方もたくさんおり、間近で子供たちの踊りを見て大変喜び、たくさんの拍手をもらった。

そうしたお年寄りの姿に、児童は「こんなに喜んでもらえるとは思わなかった。」「自分たちが引き継いできたものは地域の宝だと思った。」という感想があり、伝統芸能の「沖上げ」の価値を改めて感じる機会となった。



【6年生が近隣の介護施設を訪問し、「沖上げ」を披露している様子】